

還暦を迎えて

升 島 努

月日が経つのは早いもので、とうとう還暦を満で迎えました。厄年でもあるようですね。研究生活も後2年、いや1年定年が延びるようで後3年となるかもしれません。これからの3年もきっと全力で駆け抜けたいと思います。できるだけ還暦の事を気づかれないで、そーっと過ごそうと思い、その代わり赤い車でも買うかとも思いましたが、予算が無くこれも断念。今度ゴルフの会で還暦の祝いをしてくれるそうで、これのみで終わりにしようと思っています。どうもあの赤いちゃんちゃんこを着るのは見世物の様で、やりたくないなと言った気持ちでした。来年1月になれば、厄年通過です。良くここまで生き延びてきたなと思います。父が57歳の年齢で亡くなり、兄が58歳で亡くなりました。僕はどこまでかなと、まず59歳を目標にしていたのですが、さらに2年目標より長生きした事になります。無事61歳までたどり着けますように。

研究室はお陰さまで元気です。今年はいや今年も大変優秀な3年生（みんな4年制）諸君5人が入ってきました。もう何か自分で考えながら研究を始めかけてくれています。本当に驚きです。先輩たちもうかうかしてはおれませんね。今年、あのインフルエンザ騒動の中、6月初めにフィラデルフィアであったアメリカ質量分析学会（ASMS）に、M1 全員+D 生で大挙して行きました。あの微妙な雰囲気の中何とか行ける道が見えたので、リスクはあったものの行ったのですが、みんな行って一回り大きくなってくれたような気がして、連れて行って本当に良かったなと思っています。来年のASMSは僕が留学した町のソルトレーク市（SLC）であります。ポスのユタ大学化学学科の Eyring 教授もまだ教鞭をとってくれていますので、ちょうど孫を沢山連れてやってきた子供を見るように目を細めて迎えてくれることでしょう。ASMS 会期中の夜、ソルトレークのどこかでポスを呼んでパーティーをしたいなと思っています。学生には、あそこも見せてやりたい、ここもと、日本の他の街よりも様子が分かる町なので、想像が先に走ります。これで、研究室は21名の大所帯となりました。教室の居室は満杯近くなっています。学生同士の距離も近くなり、お互いが色々教えあったり、語り合ったりできる雰囲気が以前よりもっと濃くなっているのではないのでしょうか。

1 生細胞分析の方も、興味は企業の皆さんに日に日に広がり、今まで10社近く見学に来られたでしょうか。特に伊藤園の坂根さんというMSのすごい使い手の方と強い絆で結ばれた共同研究をするようになり、また製薬メーカー様の中で、特に第一三共様と研究が進んでいきそうです。どちらも本当に私たちの研究を大切に見てくださり、色々勉強させて戴く事が多く、とても感謝しております。本研究や HUMANIX の事が11月中下旬に、日経新聞の全国版に掲載予定だそうです。この文集がお手元に届く頃には見られる方があるかもしれません。

今年の一つ無謀な事をやりました。新聞で少し報道されましたが、自民党が選挙対策で2700億円を30研究者に補正予算で研究費をつけ、国際的な競争力をつけると、最先

端研究プロジェクトの公募を行いました。選挙の投票日の前日にその採択結果を公表するというかなり強引なスケジュールで行いました。（しかし、実際には、選挙中に惨敗の予想が出て、自民党はそれどころでは無くなり、発表は民主党が勝った後に行われました。）

また政治家がバカな思い付きを、選挙の劣勢をごまかす為に行ったと思いましたが、赤字国債でまかなうこの巨大な赤字予算を、また大御所がムダに使うのを見るのは、日本の未来にとって忍びないと、ドンキホーテの様に、この1生細胞分析がどこに行っても好評であるので、意を決して応募する事にしました。

それに呼応して、メタボロミクスの大御所の東大特任教授の田口先生と、MS データバンクの慶応大（京都大学名誉教授）西岡先生が共同提案者になって下さり、日本質量分析学会と日本分析化学会の両会長が推薦してくださり、また卒業生の中で、河合さんが、化粧品開発研究応用で協力をしてくれて（本当にありがとう）、他にも岡崎の基礎生物学研究所様や厚労省の基盤研なども連携して下さい、さらにこれを支える様に、製薬協も応援して下さい、省庁も経産省、文科省、厚労省の課長様達も評価して下さいました。特に経産省は協力的でした。残念なのが、この予算は、省庁特に文科省には口を出させないという事で、どの省庁も手が出せない政治案件となっていました。この話がある大きな人に聞こえ、その方が僕の事が気に入ったと、まったくのボランティアで、政治筋にもかなり手を回して下さい、できる限りの磐石の態勢で臨みました。

毎日深夜2時に帰るということを2週間位続けたでしょうか。全国の協力者の方々との共同作業でしたので、本当に書類作りは大変でしたが、やりがいのある作業ではありました。ネタも良く、こちらも自信を持つようになり、ヒヤリングに残る事は間違いないとみんなから言われていましたし、当方もそう思っておりました。ところが、その通知があると言われている日までに通知が無く、本当かなと色々な所に聞いている日々が結構続きました。後で分かったことですが、どうもこの企画は前々から練られていたものの様で、すでに早い段階でヒヤリングの様なことをされていた島津の田中さんのようなケースがいくつもあったようです。また東大がかなり激しくやったようで、学閥を動員して動いた形跡があったようです。そういえば、見落としていた所があります。このプロジェクトの審査において、初段でスクリーニングするワーキングというメンバーに知り合いがからっきし居ないので。その上の委員会には少しは居られたのですが、このワーキングがまず予想以上に多く応募があった560件をさばくわけですから、ここを重視しなくては行けなかったのですが・・・。うまく人の世の中、特に日本では、仕掛けを作るやつが居るもんだとあきれや、この国の未来を思うと情けないやらです。それと、動いてくださった方から言われたのは、広大が非常にその地位を下げていて、ネームバリューがこのところ大きく落ち込んでいるとの事でした。これは色々な所で広大卒業生も含めかわる一大事です。ちょっとした雰囲気微妙に判断されるとき、広大のブランドの価値で決め付けられることもあるでしょうから。

今引き続き色々な形で、我々のプロジェクトは、生き残って行くようです。本当に日本

のライフサイエンスのスピードを変え、製薬企業を中心に、その開発のスピードとコストを大きく変える可能性がある方法ですから、ある程度自信はあります、どうか吉報を待っていて下さい。

相変わらず、研究以外にもやらなくても良いことをやっています。文化の日に、広島のアマチュアの芸術家の作品を売れるようにしようと「アートイクスチェンジフェスティバル」を初めて行って見ました。これは広島が芸術を身近に感じる町になって欲しく思いやることに決めたのです。スイスのソルツルンという小さな町を案内して貰った時に、立派な石造りの建物の中に入ると、そこには、地元のアーティストの作品が、それぞれ固まりで置いてあり、部屋に何か飾りたいと思った市民が来て、気に入った作品を格安で買って帰るのです。芸術が市民の生活の中に生きていたと思いました。

もう一つは電気自動車プロジェクトです。地元の車産業がこの所大変だったのと、エコの時代の車として、水素を使った燃料電池の時代を通り越して、一気に電気自動車（EV）が登場すると見ました。エンジンが要らなくなり、広島の産業が大きく空洞化しかねないと、先行して新産業構造の探査も含めて、電気自動車の開発を地元の企業群と進めて見えています。電気自動車は簡単で、これからは大きな自動車会社でなくてもエンジンの無い電気自動車は作れるというのは、なるほど本当ですね。近隣は電気自動車で、週末に遠出するときはガソリンやハイブリッド車で、そんな時代が意外に早く来るかもしれません。

これからについて、少しお話しておきます。

1細胞分析はこれからがある意味正念場で、創薬や生命現象解析に実際に使えるようにするには、解決すべき問題が多々あります。更なる網羅性や定量性の問題もその一つです。この現状に満足しないで、更に新しい知恵を出して改革を進めて行く必要があります。そうして初めてこの手法が本当に多くの人に迎えられるものになると思っています。

教室もお陰で研究へのエネルギーが盛り上がっています。外部からも色々な方々が来られ、一人一人が頑張れば、企業の皆さんの知名度もどんどん高くなっていますので、きっと将来良いことがみんなに訪れるでしょう。

どうか卒業生のみなさんも、お元気で、今年を少し振り返えられ、良いことは記憶に残し、悪いことは原因のみを自分に求めて忘れ、少し早いですが良い年をお迎えください。教室は、来年も大活躍の年にしたいと思っています。

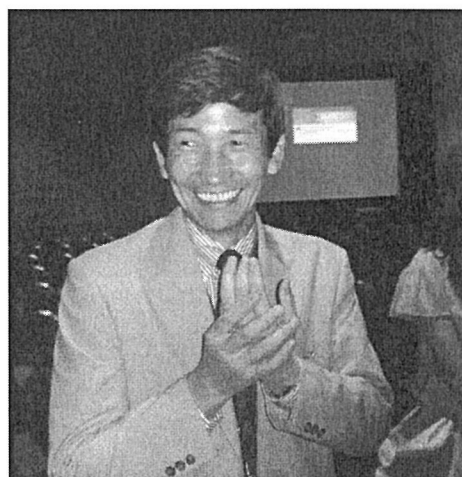
09/5/30~09/06/07

57th ASMS conference on Mass Spectrometry in Philadelphia
へ職員3名、学生5名の総勢8名で参加してきました!



Thermoのuser's meetingにて升島先生が一細胞ダイレクトMS法の講演をされました。

SMALL MOLECULE TRACK Liberty Ballroom D	
9:30 - 9:45	Introduction Dr. Lester Taylor, Director of Small Molecule Solutions, Thermo Fisher Scientific
9:45 - 10:05	Direct Mass Spectrometry of Live Single-Cells using the LTQ Orbitrap Mass Spectrometer Professor Tsutomu Masujima, Hiroshima University, Graduate School of Bio-Med Science
10:05 - 10:25	Detection of Androgenic Anabolic Steroids in Plasma by LC-MS at part-per-trillion Sensitivity Employing Full Scan High Resolution Mass Spectrometry on the Exective Dr. Scott Stanley, Associate Professor, California Animal Health & Food Safety Laboratory (CAHFS), UC Davis School of Veterinary Medicine
10:25 - 10:45	An Integrated Approach To In Vitro And In Vivo Metabolite Quantitation Using A Dual-Pressure Linear Ion Trap Dr. Scott Stanley, Discovery Biotransformation Research



講演前の升島先生